

会議録（要点筆記）

会議名	みやま市まち・ひと・しごと創生会議 令和４年度第１回会議
開催日時	令和４年８月２３日（火） 午後２時００分～午後４時０８分
開催場所	みやま消防署 消防本部１階会議室
会議次第	１ 開会 ２ 市長挨拶 ３ 委嘱状交付 ４ 委員紹介 ５ 創生会議設置要綱について ６ 会長・副会長の選出 ７ 議事 （１）協議事項 ① 事業実績報告書（令和３年度）について ② 地方創生関連交付金の活用状況について ③ 事業計画書（令和４年度）について ８ グループワーク ９ その他 １０ 閉会
委員出席者	伊東 由香利、木部 匡之（中島 佳奈美代理）、内田 和実、原口 唯、河村 尚治、大賀 茂功、大田黒 靖之、上津原 博
欠席者	北原 大輔、金子 寿、原口 聖司、岡部 晴信、馬場 國男、杉本 雅美、古賀 義教、瀬口 健
オブザーバー	大塚 力弥
事務局	木村企画振興課長、企画振興課堤、吉開
担当課	前原都市計画課長、猿本商工観光課長、坂本農林水産課長、姉川農政係長、大石秘書広報課長補佐
傍聴者数	０名

会議資料	・みやま市まち・ひと・しごと創生会議委員名簿 ・みやま市まち・ひと・しごと創生会議設置要綱 ・事業実績報告書（令和２年度）について ・みやま市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI 一覧表 ・地方創生関連交付金の活用状況について ・事業計画書（令和３年度）について ・みやま市まち・ひと・しごと創生会議質問事項について ・人口動態について
------	--

1. 開会

- 【企画振興課長】 本日はお忙しい中にもかかわらず、本会議に出席いただきまして、ありがとうございます。企画振興課長の木村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- それでは、ただいまからまち・ひと・しごと創生会議令和４年度第１回会議を開催させていただきます。
- それではお手元にお配りしております、次第によって進めさせていただきますと思います。グループワークに関しては、当初はＡグループ・Ｂグループに分ける予定でしたが、出席者が少ないため、一つのグループで実施させていただきます。
- まず初めに、市長の方からご挨拶をいただきたいと思います。

2. 市長挨拶

- 【市 長】 改めましてこんにちは。本日は大変お忙しい中、みやま市まち・ひと・しごと創生会議、令和４年度第１回会議にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。
- 開会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。
- 皆さんご存知の通り、本市では、現在第二期みやま市まちひとしごと創生総合戦略に基づき、人口減少克服し、実効性のある町創生の取り組みを推進しており、今年度はその中間年度に当たります。
- しかし地方創生を取り巻く環境というのは、令和２年から始まった新型コロナウイルスの感染拡大で大きく変化をいたしました。コロナ禍は、市民生活や地域経済に大きな影響を及ぼすこの２年間は、その対策に注力せざるをえませんでした。現在も、第７波の感染急拡大に歯止めがかかっておりません。本市でも、３桁になるような患者さんが出ているような状況もございます。
- またこうした中、原油価格の高騰、また物流コストの上昇、円安による輸入コストの増大、コロナ禍による生産体制の縮小、加えてロシア・ウクライナの情勢の影響などで、物価が高騰しておりまして、市民の暮らしを直撃しております。

本市としまして、国の地方創生臨時交付金を活用し、原油価格、物価高騰対策として、生活者支援や事業者支援に取り組んでおりますが、まだまだ先が見通せない状況でございます。

なにぶん、新型コロナをゼロに抑え込むことは容易ではなく、治療法が確立するまでは、感染防止対策と社会経済活動の両立を図っていくしかないだろうと思っております。非常に難しい対応を今、やっているところでございます。

そうした中でございますが、本日の創生会議では、ウィズコロナ、そしてアフターコロナを見据えた人口減少の克服と地方創生の実現に向けて、委員の皆様より忌憚のないご意見を賜りますことをお願い申し上げまして、私の挨拶と代えさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

3. 委嘱状交付

＜代表して大田黒委員が市長より交付、その他は配布済み＞

4. 委員の紹介

＜各委員自己紹介＞

5. 創生会議設置要綱について

【企画振興課課長】 それでは創生会議設置要綱の方をご覧いただきたいと思います。

まず、この会議の設置目的でございますが、1条の方に記載をしております。また、法第10条の規定するまち・ひと・しごと創生総合戦略を令和2年度に策定をしております。期間は5年間の計画になります。

この中にまち・ひと・しごと創生に関する様々な取り組みを記載しておりますが、こちらの方の策定、推進に関してこの会議の中で、議論していくというふうな中身になっております。

組織の方は、3条の方に20人以内で組織をするということで、名簿には17名の委員として、各分野の方からご参加をいただいているということになります。産業界、行政、教育、金融、労働、言論、住民、議会それぞれの分野から出席いただいております。

要綱の方に戻りますが、任期は4条の方に、委嘱する日の属する年度の翌年度の末日までの任期ということで、今年度と来年度になっております。

なお、各団体の事情等により1年で交代される場合の後任者の任期は、これまでどおり前任者の残任期間といたしておりますので、よろしくお願い致します。

6. 会長・副会長の選出

【企画振興課課長】 会長・副会長の選出の方に移らせていただきます。

選出方法は、先ほどの要綱の第5条の方に委員の互選によりこれを定めると書いてございます。

選任の方法としては、委員の皆様からも推薦、検討いただけたらというふうに思いますが、いかがいたしましょうか。

ご意見がなければ、事務局の方に腹案ございますが、よろしいでしょうか。

(はい)

提案をさせていただきたいと思います。

まず、会長の方に、昨年度に引き続き、教育分野からご参加いただいております保健医療経営大学の内田委員にお願いしたいというふうに思います。副会長につきましても、昨年度に引き続いて、教育分野から参加いただいております九州大学の原口委員にお願いしたいというふうに思います。

皆さんいかがでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。

それでは内田会長・原口副会長については、前方の席へご移動をお願いします。

(会長・副会長移動)

それでは、議事に入らせていただきます。これよりの進行は、内田会長よりお願いいたします。

7. 議事

(1) 協議事項

①事業実績報告書（令和3年度）について

【内田会長】 次第に従って、進めさせていただきます。事業実績報告書について事務局より説明をお願いします。

＜事務局より、以下の説明＞

事業実績報告書（令和3年度）について

＜担当課より、事前質問の回答＞

【内田会長】 基本目標4のKPIの「みやま市が住みやすいと思う人の割合」、「みやま市に住み続けたいと思う人の割合」はどちらも、ポイントが上がっていますが、サンプル数は分かりますか。どれぐらいの数のアンケート調査ですか。

【企画振興課堤】 こちらのアンケート調査につきましても、令和3年10月

に市民を対象に 1,900 枚のアンケート用紙を送りさせていただきました。その中で、郵送による回答数が 664 票、インターネットの回答が 64 票となっておりまして、合計で 728 票、回収率としましては 38.3%となっております。

【上津原委員】

14 ページの空き家バンク制度の利用促進及び「みやま市空家対策計画」に基づく空家等の適正管理の推進についての 4 行目から、『国の空き家等対策の推進に関する特別措置法に定める「特定空屋等」より早期の段階の空屋を「管理不全空家等」として対応できるように条例及び施行規則を制定しました』と書いてありますが、これの実績はどうなっていますか。

【都市計画課長】

これは、状況管理の悪い空家を「特定空家等」に認定される前に、「管理不全空家等」として、助言指導ができるように、今回条例の方を制定させていただいております。実績はまだございません。

【上津原委員】

事業実績という部分でお聞きしたのですが、ここに書いてある部分について、これは次の事業計画の中で、是非とも具体的に盛り込んでいかないといけない課題じゃないかなというふうに私自身感じております。理由とすれば、やはり高齢化が進む中で、今後は空家の劣化がかなり進んでくるのではないかと、また、基本的には市営住宅等は一生懸命書いてありますけれども、やはり個人住宅の課題もかなり出てくるんじゃないかなということで、私有財産制との関連性はあるかと思います。これについてもきちんと調査検討していただきながら、やっていっていただきたいと思いますので、令和 4 年度にもきちんとした方向性を持っていただきますようお願いしたいと思います。

【内田会長】

どうもありがとうございました。

原課の方では、条例や規則を先に作る必要があるということで、設定したということですから、そういう意味では今後実績を、例えば KPI として、何件ぐらいそういう該当するのがあったとか、そういう形で今後反映していただければというふうに、ご検討ください。

他にご質問ございませんか。

伊東委員お願いします。

【伊東委員】

先ほど上津原委員の方から、お話が出ていました管理不全空家等としての対応ができるように条例が策定されているということですが、具体的にどういったことまで、実施することができるのか教えていただけると、助かります。

【都市計画課長】 助言・指導・勧告まではできるようにしております。以上でございます。

②地方創生関連交付金の活用状況について

【会 長】 それでは事務局より説明をお願いします。

＜事務局より、以下の説明＞ 地方創生関連交付金の活用状況について

【会 長】 何かご質問、ご意見ありましたらお願いします。

③事業計画書（令和４年度）について

【会 長】 それでは事務局より説明をお願いします。

＜事務局より、以下の説明＞ 事業計画書（令和３年度）について ＜担当部署より、事前質問について回答＞

【内田会長】 どうもありがとうございました。
何かご意見、ご質問等ございませんでしょうか。
上津原委員。

【上津原委員】 農林水産業の振興であります。新規就農とかが書いてありますが、次世代と言いますか、後継者の部分でいけば、農業の継承の分についての何か手だて等はあるのかなと。ほとんどそういった部分の記載が見当たりません。親の代の農家をそのまま息子さんたちが引き継ぐときに、何か継承するそういった技術等を含めて、かなり必要性もあるのではないかと思います。何か手当があるのか考えがあればお聞かせ願いたいというふうに思います。

それと、17 ページの知名度向上・PR 事業のシティプロモーション事業でありますけれども、これは SNS を活用した情報発信等があるということだと思いますと、YouTube 等の作成があったというふうに思います。よその市町村でいけば、YouTube と PR 動画を作成すれば、そこに懸賞金等も出しながらそこで審査をするというようなことがあっております。みやま市においては、そういったより多くの人たちからの募集のために、そういった検証等をやりながら、そういった SNS の競争ではありませんが、YouTube 等の動画配信等に、

対応できるような環境をどうやって作っていくのかそういった考えはないのかというのをお聞かせ願いたいです。

【内田会長】

現時点で、回答いただける範囲で結構です。

【企画振興課長】

シティプロモーションの今の取り組みの状況も含めて説明いたします。今年度、シティプロモーション戦略というのを新たに作っております。その中で、今までやってなかったような取り組みなども、皆さんで議論する中で出てくるのではないかと、私自身も期待をしておるところでございます。YouTube の動画に関しては昨年度、コロナの臨時交付金を使って、動画を作成いたしました。山川出身の小田監督さんという九大出身の方をお願いをして、みやま市をPR するような、映画の予告編風のPR ビデオを15秒と50秒程度のもので作ってもらって、JR 博多駅のビジョンとソラリアビジョンで、2月の1ヶ月間流してシティプロモーションを行いました。みやま市公式YouTube に今も上がっています。私たちは作って非常に良かったと思っていますが、なかなか再生回数は伸びていないのが現状です。今後は動画の作り方もいろいろ工夫が要るのかなというふうに思います。さきほど上津原委員がおっしゃったように、自治体によっては、募集かけてよりよいものには懸賞や粗品を提供するといったことをしながら、よりアピール性のあるものを作っている自治体もあると思いますので、そういった取り組みについてはシティプロモーション戦略を作る中で、委員の方にこのような意見もありますという話は伝えていきたいというふうに思います。JR に流したその15秒の動画が予告編だけでなく本編を見たいという声が上がれば、本編にも手をつけたいと思っていたところございまして、そういった何か面白い仕掛けも考えながら、PR していきたいというふうに思っているところでございます。

企画振興課からは以上でございます。

【農林水産課長】

農林水産課の方から、農業の新規就農や担い手の関係をお話させていただきたいと思います。

今回のまち・ひと・しごとに限らず全体的なお話をしますと、まず新規就農でなかなか農業の後継者が不足している現状もあります。昨年度までについては、国の交付金を活用した新規就農の方に5年間補助金を交付するという形で、実施しました。しかし、これだけだと新規就農の方については、農業がしづらいということがあります。新しく農業を始める方は何もわからないという部分がありますので、補助金をやるから、農業してくださいと言っても全然分からないままやっていくということになります。かなりハードルが高いという

ことで、昨年度 JA さんを中心に、高田町の竹海小学校の南側にあるトレーニングファームにおいて、いちご栽培の新規就農者に対して 1 年間研修を行い、今年新たにいちごの農家になっていただいています。今年度も同じく、新しい方が 2 名、入ってらっしゃいます。新規就農できるような体制を今始めているところです。

今まで国は、本当に新規の方についてもその補助金といえますかそれだけやっていましたが、なかなかそれではなり手がないうというのを国の方もだんだんわかってきています。

今年度、令和 4 年度からについても、それだけではなくて、例えば親元の就農についてもある一定条件はありますが、機械補助など、そういった検討しながら、農業の継続の支援をしていくという形で実施しています。市もそれについて、国の後押しをしながら、新規就農の応援をしてるところです。

【内田会長】

上津原委員の意見は農業者のそれなりの技術を持った方がたくさんおられるのに、それが次の世代に後継者として継続されていないのではないかと、また、それに関する強力な施策なり事業を立ち上げたらどうですかって意見だと思います。

【上津原委員】

先ほど木村課長の方から言われた分については、資金を投入していかないとなかなかできないというのはあると思います。

ボランティアだけでしてくださいというようなことは、この情報社会の中では厳しいかなというような状況もありますので、それについては、担当課できちんと話をしたいと思っています。

坂本課長の言われた部分については、みやま市の産業、第一次産業が大変重要な課題であるというふうに思います。

先ほど言われた、いちごの農家の方が増えてきたということですが、私は、年間 100 世帯とか 200 所帯を増やせと言ってるわけではないです。

きっちりと計画を立てて、KPI の中で、年間 1 世帯、あるいは 2 世帯、この中できちんと生活ができる報酬が出るような環境を作っていただいて、それを広めていっていくというようなことで、今はいちご農家ということですがけれども、まだまだほかにもいろんな部分があるように思います。

そこは、行政だけで考えるということはなかなか厳しいと思いますので、農協などと連携をとっていただきながら、より良い方向性を持って、この計画の中に盛り込んでいただき、市民を巻き込んで、農業で生活ができるよということをやっていた方が、定住にもつながっていくのだろうという

ふうに思います。

また、税収にも繋がってくるということで、先を見通した部分で行っていただきたいというふうに思いますので、今後、もっと努力をしていただきたいです。これについても、継続した農家の子どもさんたちもやるという人達がいらっしゃるというふうに思いますので、そこをきちんとした支援は、やっていって、途切れないような支援をやっていただきたいというふうに思いますので、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中でも、しっかり行っていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

【内田会長】 ぜひご検討いただければというふうに思いますのでよろしくお願いします。

【伊東委員】 私の方から何点か。新規就農という意味では今坂本課長がおっしゃったような取り組みとかはなされているっていうことなんですけれども、私の職業は不動産屋なので、畑が欲しいとか、新たに新規就農したという方のご相談をよく受けます。どうしても新規就農の方の制約、要件が厳しいということになかなか認めてもらえないということで、ハードルがやっぱ高くて、断念される方が非常に多いです。新規就農の一つのハードルっていうのはあると思いますが、例えばイチゴとかであればそういったトレーニングファームに行かれてもいいと思いますし、例えば別のものを作りたいと思ってらっしゃる方には一歩手前の段階でのサポートっていうのがあってもいいのかなと思っております。新規就農についてはそういったものをご検討いただければいいかなと思います。

次が、空き家バンクに関することですけれども、今、空き家バンクの成約件数、登録件数っていうのは、KPI で追われていると思います。ただ、実際に登録されているものというのは、結構いい物件が多いです。値段としても、それなりの評価でされている物件が非常に多い。ただ問題になってくるのは、なかなか出てない、もうどうしようもないやつとか、実際問題は地域にとっては一番の問題の物件になってくると思いますが、そういった物件の登録っていうのは非常に少ない。

どうしてそういうふうになるのかっていうのも、厳密に私も判断できるわけではないですが、正直その不動産屋の目からすると、いい物件っていうのは、まともに流通をするので空き家バンクに登録する必要性はないです。そういったものじゃないものについて、登録している不動産会社は何社かあると思いますが、一つ一つ空き家バンクとして登録するという作業も人の手がかかっています。私たちとしては、何ら

見返りが無いということになると、やっぱり正直やりたくないという風になると思います。

悪い言い方してしまうと、よけいな仕事が増えてしまうという感じになってしまうので、登録する業者に対しても何らかの利益がある方が登録件数は増えていくと思います。あんまり良い物件が多すぎると、どうしても悪い物件には目がいけないということもあるので、難しいところはあるのかなと思っています。空家バンクについては以上です。

次に 22 ページにあった子育て世代のサポートっていうところですが、本市より通勤 35 歳以下の市民に、定期購入費用を助成するというのがあるんですけども、どこを根拠に 35 歳以下というのは、恐らく子育て世代に移住して欲しいっていう意味だと思うんですけども、実績報告の中では、20 代の出生率は下がっているけれどもそれ以外の年齢階層では上昇しているという報告でした。ということはもう子育て世代の年齢が上がってきているということだと思います。以前のように 20 代が子供の親っていうわけではなく 30 代 40 代の方が増えてきている中で、昔のその歴史というか、流れという意味で、35 歳ぐらいを守らなければいけないのか。40 代も 50 代も子持ちの方は増えていると思いますし、実際に移住したい、やっぱり環境がいいっていうことをよくおっしゃられますが、こちらに移っていきたいっていうご相談のお客様、お子さんの小さいお子様や、いっぱいいらっしゃって、その方がほとんどで 20 代、30 代前半ではなかったりするので、この年齢のところを一つ考えていただければいいのかなと思っています。

【内田会長】

どうもありがとうございました。ではお分かりになる範囲で回答をお願いします。

【農林水産課長】

イチゴの関係以外のやつでちょっと回答させてください。私がイチゴ農家のトレーニングファームを強調して説明しましたが、みやま市には基本的にはなす、みかん、セロリ、これがやっぱり一番特産品としては多く、主要なものになります。

その三つについては、基本的に JA さんの部会が中心になっていますが、そういったところはある程度、そういった先輩方がしっかりしていらっしゃって、そこについては、その部会の中に、先生といいます先輩といいますか、そういった方がいらっしゃいます。

新規就農サポートチーム、そういう対策はとっておりますので、そういった方についても、他の作物ということですね、そういったサポート体制で臨んでいます。

若干いちごが、主要な特産品に比べ、部会が小さく、数も

減少傾向にあります。

先ほどのトレーニングファームについても、なすについても、そこで実施出来ますが、なすは先ほど言いました部会の先輩たちが大勢いますので、そういった方達に指導等をよろしくお願いしたいと思います。

昨年はなすも、今年について花き農家さんとか、そういった方たちも大勢いらっしゃると思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

【農政係長】

補足をさせていただきます。事業計画書の2ページに、新規就農サポートチームによる就農支援の実施と記載しています。南筑後農業協同組合はみやま市と大牟田市が含まれています。みやま市とJAさんと県の普及指導センターで、それで新規就農サポートチームを組んでいます。そこで毎月1回、就農相談会を実施しておりますので、そこで何をしたいとか、どうやって農業始めたらいいのとか、そういうのは一緒に集まってですね、お話をしております。もしそういう農業を始めたいというのであれば、まずはみやま市役所の農林水産課の方に電話いただければ、日程を設定して、農業のイロハや、ナスを始めたいとか、セロリを始めたいと、そういうお話をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。以上です。

【企画振興課長】

先ほど、22ページの通勤定期利用支援金がどういう理由で35歳以下にしたのかということですが、まだ説明をしていますが、人口動態の資料の4ページをお開きいただきたいと思います。

4ページに年齢階層別転入・転出の状況というのを載せておりまして、上が男性、下が女性になっていますが、転出超過ですね転入よりも転出が多ければ、グラフが下の方に行きます。転出よりも転入が多ければグラフの上の方に行くというふうなグラフです。

薄い折れ線グラフの方が、令和2年度、濃いグラフが令和3年度ということになっています。去年、この事業を設計する段階では、令和2年度の資料しかなかったのもので、令和2年度ベースに検討しています。これを見ると転出超過が多い年齢層が、男性も女性も、トータルすると大体20歳から35歳が転出しているというデータが出ます。

理由を考えた際に、国勢調査の就労をどこでしているかというところを分析すると、就職みやま市外に就職して、それを契機に、転出されたりしているような傾向が、いろんな情報から見えてきたというところで、みやま市にもJRは駅が三つありますし、西鉄の駅が二つありますし、新幹線の駅も筑後船小屋駅と新大牟田駅と、割と近いので、公共交通機関

で通勤してもらって、住むところはみやま市に住んで欲しいなというふうな考え方から、この35歳というのは、はじき出しました。令和3年度を見ると、30歳～34歳は転入超過になっています。この辺の数は毎年動いていくので、なかなか正確には掴めないところありますが、一応この制度自体はそういうふうな考え方で、お仕事は大牟田市・久留米・福岡市とかに行ってもらってもみやま市に住んでくださいよという発想で制度設計をしたというところでございます。

一応この事業についても、基本的には3年間で、検証するというふうな、基本的なスタンスでありますので、3年後に、この効果が果たしてどうなのかというところはしっかり見ながら、事業継続するのがどうなのか、より効果があるやり方が他にないのかとか、いうところは考えていきたいなというふうに思っているところでございます。

そういった理由だったということで、ご理解いただきたいと思います。

【内田会長】 どうもありがとうございました。

【企画振興課長】 空家の件は担当課が帰っておりますので、具体的に答えられないんですけども、確か昨年ぐらいに、そういった非常に難しい物件を扱ったときの、何か支援制度を市から補助するような、新しい仕組みを確か作っていたと思います。要はあの地域で課題になるような、空き家バンクに登録しても全然はけていけないような物件について、取り扱う場合に、不動産業者さんに支援するような何か制度を新しく作ったような記憶をしていますが、正確なことは言えませんので、そこは後程調べて、お知らせしたいと思います。

【内田会長】 ありがとうございました。35歳以下の合理的な意味がないのであれば、ぜひ見直しする方向で検討いただければと思います。

事業計画書で新規事業も、先ほどご説明いただいたとおり、それなりに盛り込んでありますが、前年度の実績・KPIをせっかく設定しているのでもうまくいっている事業はさらにうまくいくようにどうするのかとか。うまくいっていないのは何でうまくいっていないのか。こういう新しい事業を立ち上げたらどうか、そのあたりがあまり繋がっていないなと思います。

せっかく毎年こういう会議が催されている意味っていうのはその辺りにあると思います。ぜひ今後の会議の進め方として、これもむしろ現課にお願いすべきなのかもしれません、ぜひ積極的にこの総合戦略の方にご参画いただければと思います。

以上で、議事の方は特段皆さんからのご意見がなければ終

了したいと思いますが、よろしいですか。

【原口副会長】

内田会長の発言と重なる部分ですが、特に進捗がBになっているものに関する、改善策がないことが気になっています。農林水産業総生産額のことや、市内女性就業率の件、それから結婚出産に関わる新たな取り組みがない。それらはB評価でありましたが、継続施策ばかりで、また、結局来年もB評価になるのではないかと、そうなった時に毎回呼び出される私たちの意味を失っていくふうになり、少し思ってしまう、そこへの何かしらのご検討あっていただいてもいいのかなというふうに思います。

あとは46ページになりますが、先生への教育ができたとか、環境が良くなったというような評価をされていますが、生徒さん自身の自己評価みたいなものに関してはB評価で、生徒さん自身は自分がそこにいるということを肯定的にできていないというような結果になっていまして、実際のKPIも効果に繋がっていない施策が見えるようになっていまして、この辺りの指標の考え方についても、どこかで検討できる余地があるのではないかと思います。

大きく二つ、進捗していない施策に対する改善策をお願いしたいのと、担当課の方が熱心に取り組んでいらっしゃるのと、KPIの成果というものが繋がっていないところに対する、働きかけていくことを見直していただけたらなと思います。

【企画振興課長】

おっしゃるところは確かに、指摘されてしかたない内容になっているかなと思います。実は今事務局で検討していますのが、事業実績報告書と事業計画書が別になっていまして、この書類自体が繋がっていません。そのため、そこが現課でも、評価した上で、今年度の事業計画を進めようと、1枚のペーパーの中で、見えるような形にしないとそこら辺がまずは解決できないのかなと思います。別の綴りやったらもう別ものになってしまうというところは、感じていたところで、何とかわかりやすいご資料づくりができないかなというところは、考えていたところでございます。

まずそういった様式的なところから見直しを少し図りながら、現課の取組みとも繋がっていくように、自然と繋がっていくような何か仕組みがつかれないかなというふうに思っていますので、ご指摘どうもありがとうございました。

【内田会長】

様式を変えるだけでも、受け取られる現課にとっては、整理しやすいかなと思います。

それでは、大分時間も押していますが、予定した議事はこれで閉じたいと思いますがよろしいでしょうか。それでは議

事は終了したいと思います。

- 【企画振興課長】 事務局の方から提案させてもらっていいですか。
- この後、この議事が終わった後にグループワークを行いたいと思っていましたが、時間が2時間経過しましたので、グループワークについては次回の会議にまわしたいと思いますが、今日資料として準備している部分だけ説明させてもらって、それを理解していただいた上で参加していただけるとよりスムーズにグループワークを進めると思いますので、本日お配りしているグループワーク用の資料について、事務局の方から説明させていただきたいと思います。

＜事務局より、以下の説明＞ 人口動態について

- 【企画振興課長】 グループワークの材料を使って本来だったら人口動態から見た本市の課題を皆さんでざくばらんに話をさせていただきたいと思いましたが、その次回の会議の中で、ワークショップという形でさせていただきたいなと思っています。
- 特徴的な部分だけ今言っただけでなんとなく感じられた部分があるという思いますし、これまた帰ってご覧になって、これはどういう理由なんだろうとか、ここら辺をちょっともっと掘り下げれば、ひょっとしたら、人口減少対策で、何か策を打てるんじゃないかとか、そういったものをですね次回、皆さんで話ができたなというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

- 【内田会長】 質問いいですか。
- 4 ページ目、人口動態の資料の4 ページですが、令和3年度の男性の30代から40代前半までは、転入超過になっています。男性と女性でパフォーマンスが違います。男性の方が、前向きな状況で帰ってこられているなら、それを伸ばせないかなと思います。

- 【伊東委員】 私が知り得る限りのことですが、20代は結婚だったり、大学で出ていったりとかすると思いますが、大体私のエリアのところで、新築の物件って増えているんですが、30代、40代になられて家を建てられるタイミングで戻ってもらえるとかっていうことが結構多いです。
- やっぱ奥様の実家が近いとか、この環境がいいっていうので、家を建てるタイミングでいらっしゃる方が大変多く感じています。

【企画振興課長】

令和2年度はそんなことは全然なかったです。それで何で令和3年度がこうなったのか、分析しないといけないと思っています。

次回までに何かわかればですね、情報提供できればと思っていますところでございます。

今回の会議では、この人口動態の資料と国勢調査の資料を使って、目標もテーマに向かってました、人口減少対策で着目すべき点なんかを皆さんで意見を出し合ってそれに対する対策はこんなことを考えられるんじゃないか。

筑後市・小郡市は人口が増えていると説明をしましたが、そこら辺のところはどう違うんだろうとか、率直なご意見を聞かせていただいて、何かが見えればというふうに思っていますので、どうぞご協力の方よろしくお願ひしたいと思います。

今回の開催について、私の方からご報告をさせていただきますと思います。

レジュメの方に書いておりますが、今回の会議は、9月26日（月）10時から12時までの2時間、この場所で開催します。今回はグループワークを中心に実施したいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。資料としてとりあえず、この人口動態については、ご持参いただいて、その2つを使っていただいて、その時に何かご提示できる資料があれば、ぜひしたいと思います。

今日はちょっといろんな事情で欠席も多かったのですが、今回は2グループぐらいに分かれてやれたらなというふうに思っておりますので、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

その他、皆さんの方から何かございませんでしょうか。大塚さんはせっかくオブザーバーで来てもらって、グループワークに参加いただきたかったのですが申し訳ないです。次回もぜひご参加をお願いしたいと思います。

【大田黒委員】

意見というか感想も含めてなんですけども、ちょっと全体的な話でさせていただくと、私の会社に愛知県から移住されている方がいらっしゃいまして、いろいろ話を聞いているとこの地域の評価がすごく高いです。

せっかく転入していただいて、うちの企業に入社してもらっているの、何か楽しんでもらいたいなと思っておりますが、移住してきた方がいいと思うポイントというのは、僕らが思うポイントと、全然違うというところが一つあります。住んでいる人の目線と、来た人の目線に違うということがいえます。

農業に関しても、その新規就農者が取れていないということですが、そもそもそんなに新規で就農したいという人がど

れくらいいるのかなと思います。まったくないとは思いませんが、そこまで需要のないところにお金をかけるべきなのかなと思います。

あと人口動態の部分では、住んでいる人の立場としても、働いてそこで仕事をしていく人の立場としても、例えば人口が単純に増えたとしたら、解決される問題ってすごくいっぱいあるのかなというところで、どの問題が紐づいているのが分かればより良い結論を考えられると思います。

そうなったときに、例えばその子供が増えない問題も、子供を生まない世代の人たちが話すよりも、子供を実際に産む世代の人たちに意見を聞こうよって話になると思うので、またこういった、おそらくやりたかったであろうグループワークを未来会議とか本当若手の人たちがいる中でどんどん行ってもらった方が、何かいい意見があるのかなというのも感じましたので、最後にご意見させてもらいました。

【企画振興課長】

ありがとうございます。

全く同じような気持ちでいましたが、なかなか今までもこういったデータをお見せしてデータに基づいて、皆で意見を出しましょうという機会を私どもできておらず、事業評価・審査するばかりでは、全然面白くないなっているところがあったというふうに思います。前回、原口先生にも、最後の方でそういったご提案をいただきましたので、今日このグループワークをセッティングしたんですけど、時間の都合で開催できなかったということを、ぜひご理解いただきたいと思います。

大変長時間になりましたが本当今日はありがとうございました。

本日の会議はこれで閉じさせていただきたいと思いますので、次回9月26日、10時からこの場所で開催いたします。

よろしくお願いします。どうもありがとうございました。

(午後4時08分 閉会)